

地震対策の必要性を伝えるために

THKの「減衰こまRDT」を使用した外付け工法 短い工期で大きな効果がありました

秋田市教育委員会では現在、新しい建築基準法が制定された昭和56年以前に竣工した小・中学校の耐震診断を実施しています。そして、基準に満たない校舎については、順次、耐震補強工事を行っています。

築山小学校には110年もの伝統があります。しかし、現校舎は昭和46～47年竣工で、基準を満たしていませんでした。工事の検討段階で問題となったのは、従来工法では補強箇所が多いため工期が長くなり、仮校舎設置の必要があったことです。そこで採用したのが、THKの「減衰こまRDT」使用の外付け工法。コストはもちろん、約半年間という短期間で完成するため、授業への影響を最小限に抑えることができる大きなメリットがありまし



▲減衰こまで耐震補強した秋田市の築山小学校校舎外観

た。威圧感のある制震ダンパーにはカバーをかける等、外観にも配慮しました。

岩手・宮城内陸地震の際、従来の工法を採用した他校ではヒビや配管の損傷がありました。築山小学校では一切なく、十分な耐震効果があったと喜んでおられました。